

平成30年 7月20日

まちづくり委員会追加資料

所管事務報告

「川崎市景観計画」改定素案の策定について

〈追加資料〉

資料1 中原街道整備に関する勉強会の概要について

資料2 中原街道整備に関する勉強会 第1回勉強会資料
(平成30年3月23日開催)

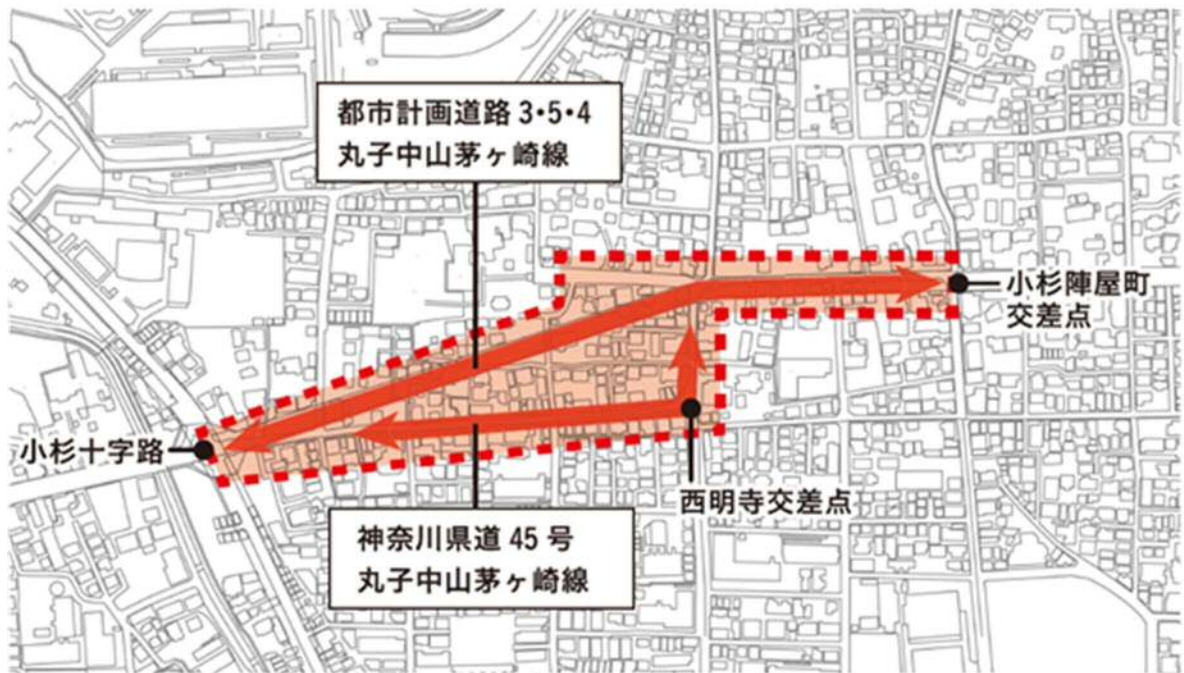
資料3 中原街道整備に関する勉強会 第2回勉強会資料
(平成30年6月5日開催)

まちづくり局

中原街道整備に関する勉強会の概要について

中原街道都市景観形成地区内における都市計画道路丸子中山茅ヶ崎線（小杉十字路交差点から小杉陣屋町交差点先までの区間）の道路整備に際しまして、中原街道景観形成方針及び基準に基づく道路整備のデザインについて、沿道住民の方を対象に勉強会を開催しております。

全3回の開催を予定しており、既に2回の勉強会を終えております。これまで開催した勉強会の資料は別添の通りです。



【勉強会の開催状況】

- ・ 第1回勉強会 平成30年3月28日
- ・ 第2回勉強会 平成30年6月5日

中原街道 第1回勉強会資料

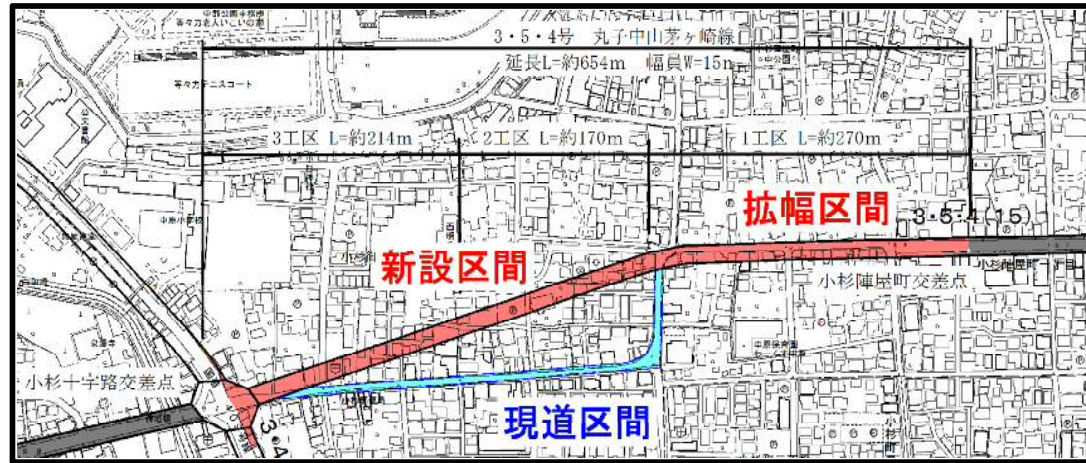
川崎市 南部都市基盤整備事務所

中原街道勉強会の開催にあたり

1. 中原街道の道路工事について

本路線は都市計画道路丸子中山茅ヶ崎線として昭和21年に都市計画決定されており、小杉十字路口交差点から小杉陣屋町交差点先までの区間について、平成14年に事業認可を取得し、現在事業を進めているところです。なお、平成29年3月現在の用地取得率は、86%になっております。現在までに、新設区間の一部で電線共同溝整備、車道舗装の一部を終え、新たに拡幅区間において、電線共同溝の整備を進めているところです。

[位置図]



2. 勉強会開催の趣旨

本路線は東京都の虎ノ門から平塚市の中原までを繋ぐ、江戸時代に整備された歴史のある街道であり、中原街道という名称で、広く親しまれています。その中でも、丸子から府中街道と交わる小杉十字路までの地区は、将軍家が宿泊のために本陣を構えた地であり、歴史性を感じられる資源が今でも残っています。そうした背景の中で、上記位置図の現道区間と新設、拡幅区間を、中原街道景観形成地区に指定し、歴史街道の一つとして景観(デザイン)に配慮した整備を行うことになりました。中原街道景観形成方針・基準に基づき、具体的な景観(デザイン)について、こちらから提案等をしなが、協議会や地元住民の方々にご意見等を伺い、将来の具体案をまとめていきたいと考えております。

3. 勉強会の内容

勉強会は本日を含めて3回を予定しております。

[第1回]

- ・勉強会開催の趣旨説明
- ・現道区間の景観(デザイン)案の提示
- ・意見交換

[第2回]

- ・第1回意見の回答・報告
- ・第1回意見を踏まえた現道区間景観(デザイン)案の提示・報告
- ・新道・拡幅区間の景観(デザイン)案の提示
- ・意見交換

[第3回]

- ・第2回意見の回答・報告
- ・第2回意見を踏まえた現道区間景観(デザイン)案の提示・報告
- ・第2回意見を踏まえた新道・拡幅区間景観(デザイン)案の提示・報告
- ・現道区間、新道・拡幅区間の景観(デザイン)案の決定

舗装材比較表

	車道	車道・路肩	車道・路肩	路肩	舗装端部
	第1案	第2案	第3案	第4案	参考
材質	アスファルト舗装	半たわみ舗装 ショットプラスト加工	半たわみ舗装 ショットプラスト+カッター目地加工	ストリートプリント舗装	小舗石舗装
イメージ	 	  	 	 	 
概要	<p>現況と同じ一般的なアスファルト舗装。プラントで製造された加熱アスファルト混合物を引き均し転圧する。</p>	<p>開粒度アスファルトの空隙にセメントミルクを充填させた半たわみ性舗装の表面を※ショットプラスト処理により、自然石の色彩を演出する。</p> <p>※機械により表面をザラザラにする処理</p>	<p>2案の半たわみ性舗装にショットプラスト処理した後、石張りの雰囲気が出るようにカッターでデザイン目地を入れる工法。</p>	<p>アスファルトを加熱し、型枠を置き、その上から転圧することにより、表面に模様をつけて、石張りやブロックに似せた形を演出する景観舗装。</p>	<p>コンクリートを基盤として敷きモルタルの上に小舗石を敷き並べる工法。舗装端部のアクセントになる。</p>
デザイン性	<p>一般的なアスファルト舗装で黒系色となる。</p>	<p>色味を付ける事で景観にとけ合った自然色豊かな舗装面が表現できる。また表面をザラザラにすることで、自然石に近い見栄えとなる。</p>	<p>2案+カッター目地加工する事で自然石の石畳み舗装に近い見栄えとなる。</p>	<p>カラーバリエーションとデザインが豊富である。ただし、塗料を塗布するため自然石とは質感が異なる。</p>	<p>天然石のもつ自然な色調や重厚な質感をそのまま表現でき、石質や石表面の加工程度により、様々な表現が可能である。</p>
耐久性 維持管理性	<p>・アスファルト舗装の設計期間は一般的に10年で設定されている。また維持管理も容易である。</p>	<p>・耐久性がある。 ・部分補修を行った場合、アスファルト舗装に比べ、補修部分の見え目が目立つ。</p>	<p>・耐久性がある。 ・部分補修を行った場合、アスファルト舗装に比べ、補修部分の見え目が目立つ。</p>	<p>・経年により表面塗料が落ちる恐れがある。 ・舗装の溝が欠ける恐れがある。その都度部分的な補修が必要である。</p>	<p>・小さいブロックを並べるため、経年によりがたつく恐れがある。</p>

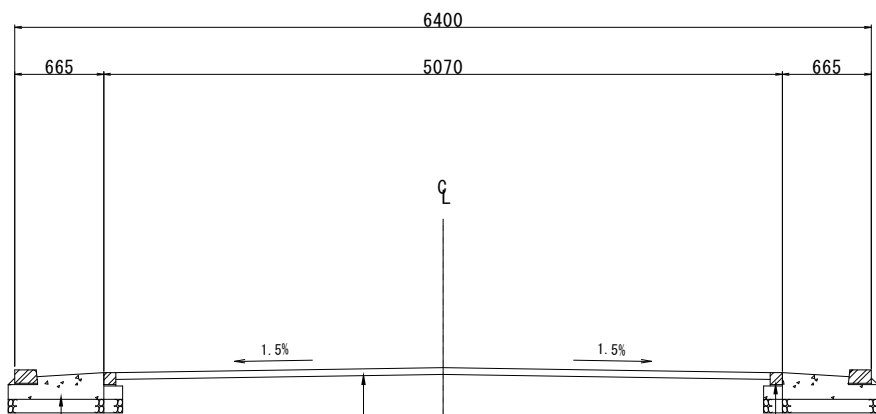
側溝比較表

	第1案 街渠	第2案 L型街渠（幅狭タイプ）	第3案 L型街渠（擬石タイプ）	第4案 鋼製側溝
概要	現場で側溝を整備する。	幅35cmの狭いタイプのプレキャスト側溝製品を使用する。	2案と同様だが幅50cmで擬石のよう景観仕上げを行った側溝製品を使用する。	鋼製の側溝を使用する。
施工事例				
詳細図				
歩行性	現場で側溝を整備するため継ぎ目が少なく平坦性は優れる。	幅が狭いので歩行空間を広く確保できる。	平坦性は確保出来る。	幅が狭いので歩行空間を広く確保できる。
走行性	一般的な構造物であり特に問題はない。	一般的な構造物であり特に問題はない。	一般的な構造物であり特に問題はない。	コンクリートに比べ滑りやすいが車輛の走行は沿道からの出入りにが主となるので問題はない。
維持管理性	維持管理は容易である。	維持管理は容易である。	補修時に同製品が入手出来ない可能性があり、その場合類似品で対応となる。	側溝内にごみが溜りやすく、側溝機能が落ちるため、定期的に清掃が必要となる。路面滞水は少ない。
景観性	経年変化によりコンクリートの色褪せが目立つ。	経年変化によりコンクリートの色褪せが目立つ。	擬石タイプなので景観性が高い。	無機質な金属面が表面にできるため、景観性は劣る。

計画標準断面図

1案

中央線を引き片側1車線確保する場合



【側溝について】

① 街渠



② L型側溝 (幅狭タイプ)



③ L型側溝 (擬石タイプ)

【舗装について】

① アスファルト舗装

② 半たわみ舗装

(ショットブラスト
カッター目地)

③ 半たわみ舗装 (色付：茶系)

(ショットブラスト)

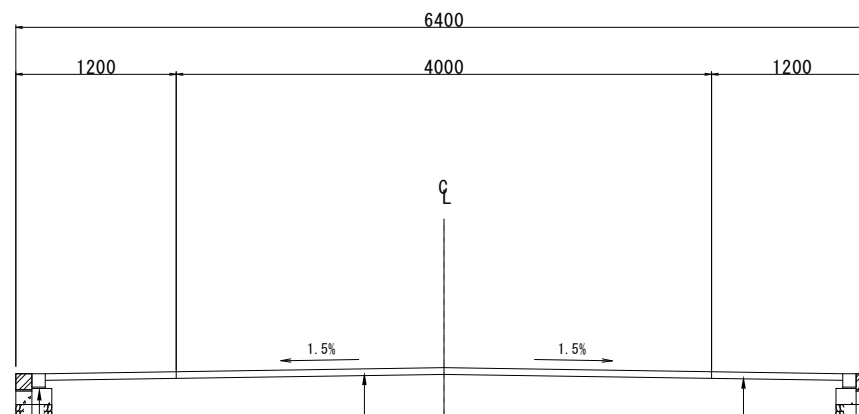
【舗装端部について】

① 無し

② 小舗石等 (擬石含む)

2案

中央線無しで相互通行可として、路肩を広く確保した場合



【側溝について】

① 鋼製側溝

② L型側溝 (幅狭タイプ)

③ L型側溝 (擬石タイプ)

【舗装 (車道) について】

① アスファルト舗装

② 半たわみ舗装

(ショットブラスト
カッター目地)

③ 半たわみ舗装 (色付：茶系)

(ショットブラスト)

【舗装 (路肩) について】

① ストリートプリント工法
(型押しアスファルト)

② 半たわみ舗装

(ショットブラスト
カッター目地)

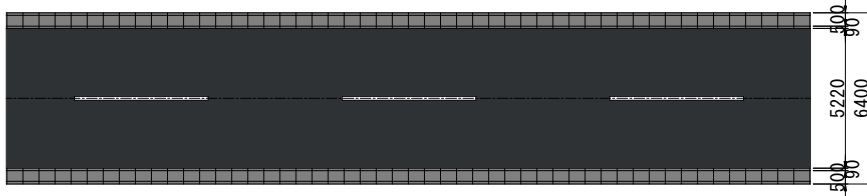
③ 半たわみ舗装 (色付：茶系)

(ショットブラスト)

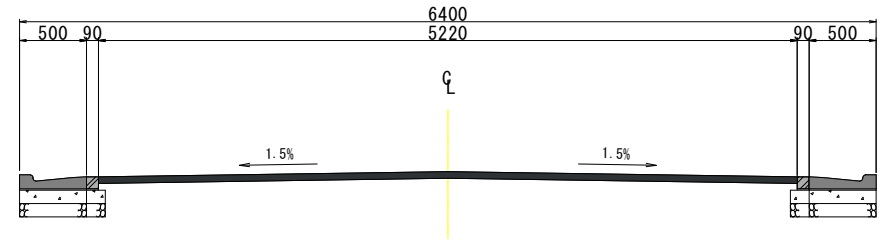
1案 組合せ具体例

1-1案 平面図

側溝：③ L型側溝(擬石タイプ)舗装：① アスファルト舗装 舗装端部：② 小舗石等(擬石含む)

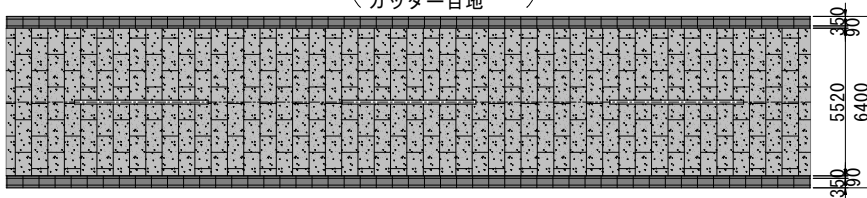


1-1案 断面図

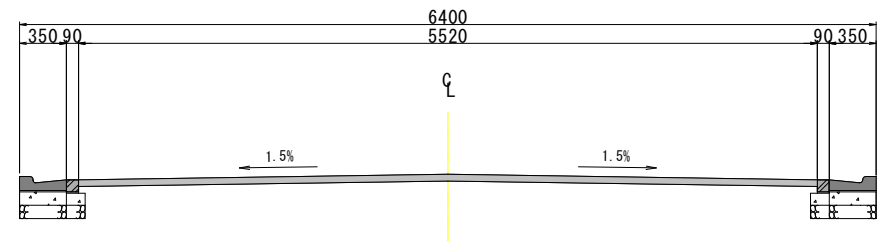


1-2案 平面図

側溝：② L型側溝(狭石タイプ)舗装：② 半たわみ舗装 (ショットブラスト) カッター目地 舗装端部：② 小舗石等(擬石含む)

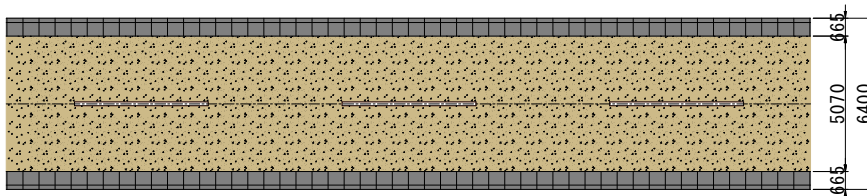


1-2案 断面図

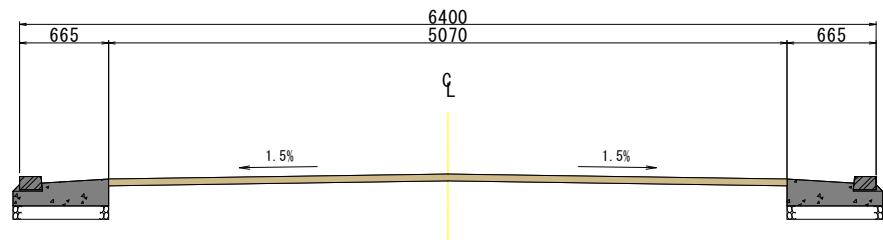


1-3案 平面図

側溝：① 街渠 舗装：③ 半たわみ舗装(色付:茶系)舗装端部：① 無し (ショットブラスト)



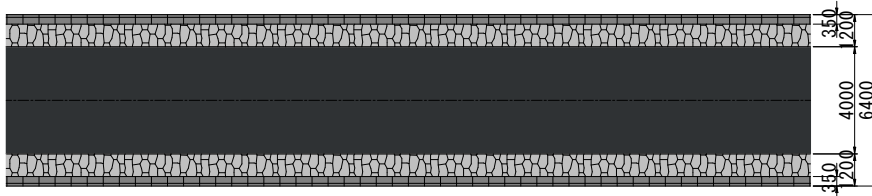
1-3案 断面図



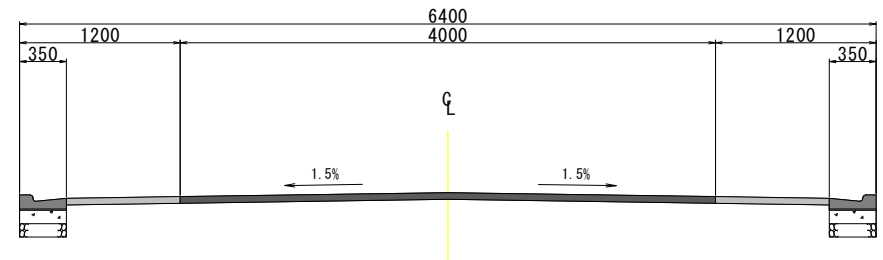
2案 組合せ具体例

2-1案 平面図

側溝：② L型側溝(狭石タイプ) 舗装：① アスファルト舗装 路肩：① ストリートプリント工法
(型押しアスファルト)

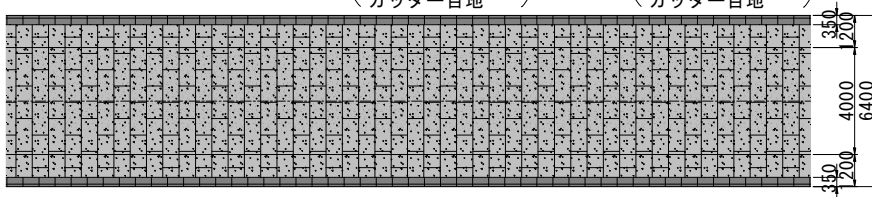


2-1案 断面図

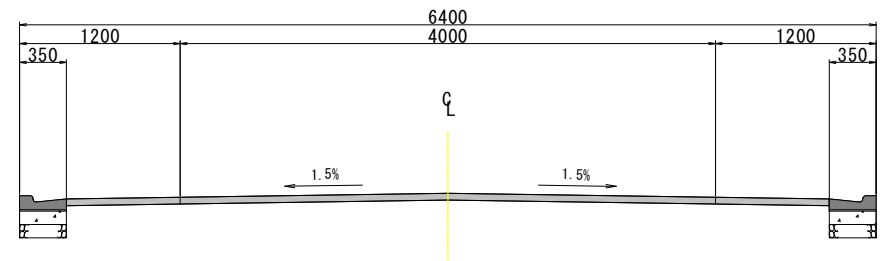


2-2案 平面図

側溝：② L型側溝(狭石タイプ) 舗装：② 半たわみ舗装
(ショットブラスト
カッター目地) 路肩：② 半たわみ舗装
(ショットブラスト
カッター目地)

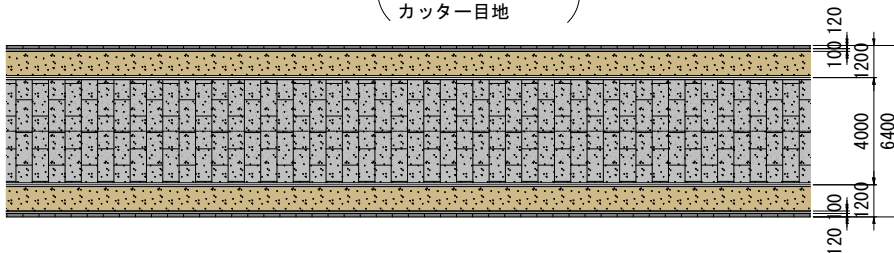


2-2案 断面図

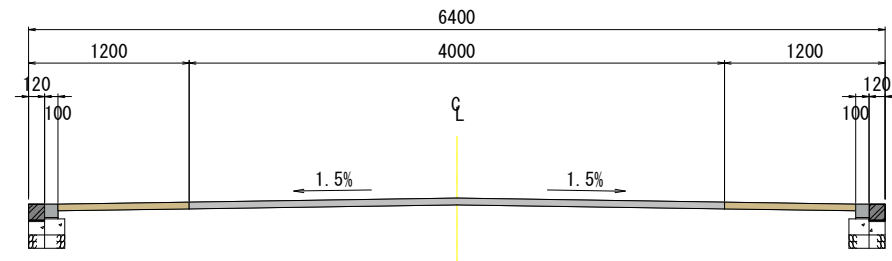


2-3案 平面図

側溝：① 鋼製側溝 舗装：② 半たわみ舗装
(ショットブラスト
カッター目地) 路肩：③ 半たわみ舗装(色付:茶系)
(ショットブラスト)



2-3案 断面図



第2回勉強会資料

川崎市 南部都市基盤整備事務所

中原街道の道路デザインについて

■ 第1回 勉強会で挙げた主な意見

大型車も通るので、(案2の)車道幅4mでは足りないのでは。
 一方通行規制してほしい。
 新道を早く整備してほしい。

現行の旧道に対して、狭い、危ないといった不満を抱えており、**道路の意匠面のデザインよりも、道路の構造・機能面**に対する意見が多く挙げられた。

■ 道路デザインの方向性

中原街道都市景観形成地区の景観形成方針を踏まえ以下の方向性で検討していくことが望ましいと考えられる。

中原街道景観形成方針

「人にやさしく、歴史が息づく街なみの創造」

1. 歴史・文化を伝える「風情」がある街なみづくり
2. 人にやさしい街なみづくり
中原街道を行き交う人々が、安全に通行し、緑や開けた道路空間が感じられる街なみづくりを進めます。
3. 「住」と「商」、交流が生まれる街なみづくり

景観形成基準

- 公共空間における舗装等の色彩は中原街道の歴史的建造物等に見られる色テーマ色に合わせたものとするを推奨します。
- 歩行者空間となる場には、可能な限り緑を配置するとともに、地域の歴史及び文化を想起させる設えを行うことを推奨します。
- 舗装材は、自然素材又は質感のある素材を使用するよう努めます。
(参考：民地の基準)

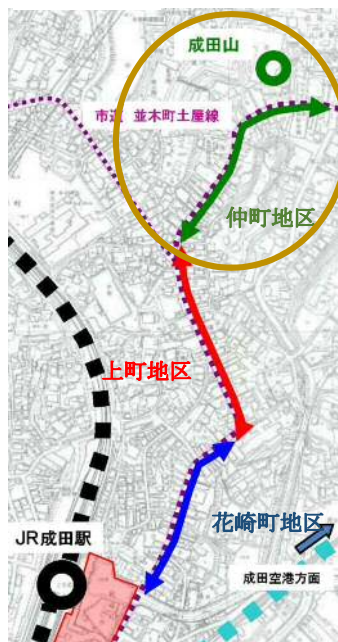
【基本コンセプト】

中原街道の歴史・文化を感じさせる「和」の景観イメージを持たせたデザイン
【構造・機能面のコンセプト】
 案1 現在の交通機能を維持
 案2 交通車両の減少に合わせ、路肩を広く取り、歩行空間を確保

■ 舗装の事例紹介 千葉県成田市 成田山参道整備 仲町地区

車道部分はアスファルト、路肩は「和」をイメージさせる黄土色でカラー舗装を施した道路であったが、道路の補修時期になり、舗装を石畳風にして、より情緒あふれる道路整備を行っている。

【案内図】



仲町(なかまち)地区
 成田山新勝寺に一番近い区間となる。計画段階では、仲町街づくり協議会と市で話し合い、石畳風の道路整備となった。

<施工前>



車道部分はアスファルト、路肩は「和」をイメージさせる黄土色でカラー舗装を施した道路であった。

- ・舗装 ①アスファルト舗装
- ・路肩 カラー舗装

<施工後>



石畳風にして整備前の「和」をイメージ崩すことなくより情緒のある参道を整備した。

- ・舗装 ②半たわみ舗装
- ・路肩 ②半たわみ舗装

<明度の違い>



薄いグレーと濃いグレーを区画線で分け車道と路肩の分けを生み出している。

■ 一方通行について (H26年度協議会の議事録より)

警察から一方通行は困難であると回答を受けているが、今回改めて要望を受け、中原警察に相談。



一方通行の検討を始める条件

- ・各町会で話し合いを持たれること。
- ・各町会・商店街の連名で陳情書を提出されること。



警察が一方通行の可否について検討をする。

1案について、良いと思う旧道整備デザインの□に○をお書き下さい。



1-1案 平面図

側溝：③ L型側溝(擬石タイプ) 舗装：① アスファルト舗装 舗装端部：② 小舗石等(擬石含む)



<デザイン内容>

車道舗装をアスファルト舗装にすることで、側溝と小舗石を際立たせるデザイン

[側溝]



[舗装]



[小舗石]



1-2案 平面図

側溝：② L型側溝(狭石タイプ) 舗装：② 半たわみ舗装 (ショットプラスト カッター目地) 舗装端部：② 小舗石等(擬石含む)



<デザイン内容>

幅狭タイプで側溝の存在を目立たなくして、自然石風の舗装に仕上げるデザイン

[側溝]



[舗装]

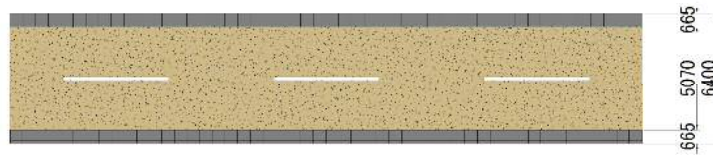


[小舗石]



1-3案 平面図

側溝：① 街渠 舗装：③ 半たわみ舗装(色付:茶系) (ショットプラスト) 舗装端部：① 無し



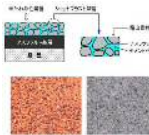
<デザイン内容>

半たわみ舗装に色を付けて「和」のイメージを持たせたデザイン

[側溝]



[舗装]



上記以外に希望する組合せがあればお書きください。

側溝

舗装

舗装端部

その他ご自由にお書きください。

2案について、良いと思う旧道整備デザインの口に○をお書き下さい。



2-1案 平面図

側溝：② L型側溝(狭石タイプ) 舗装：① アスファルト舗装 路肩：① ストリートプリント工法(型押しアスファルト)



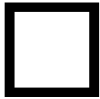
<デザイン内容>

車道舗装をアスファルト舗装にすることで、路肩を際立たせるデザイン

[側溝]

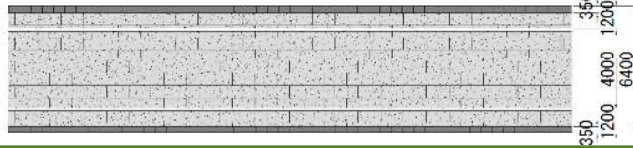
[舗装]

[路肩]



2-2案 平面図

側溝：② L型側溝(狭石タイプ) 舗装：② 半たわみ舗装(ショットブラスト) カッター目地 路肩：② 半たわみ舗装(ショットブラスト) カッター目地



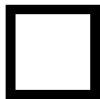
<デザイン内容>

車道と歩道の舗装を一緒にして統一性を持たせたデザイン

[側溝]

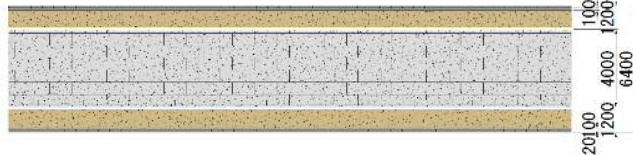
[舗装]

[路肩]



2-3案 平面図

側溝：① 鋼製側溝 舗装：② 半たわみ舗装(ショットブラスト) カッター目地 路肩：③ 半たわみ舗装(色付:茶系)(ショットブラスト)



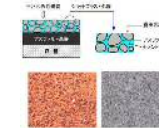
<デザイン内容>

車道と路肩で質感は合わせ、路肩に色味を持たせたデザイン

[側溝]

[舗装]

[路肩]



上記以外に希望する組合せがあればお書きください。

側溝

舗装

舗装端部

その他ご自由にお書きください。

※一方通行になった場合は、車道と歩道の幅員構成が変わることがあります。

中原街道の道路デザインについて（新道・拡幅部）

■ 検討する内容

- ・ 歩道のデザインと色
- ・ 横断防止柵のデザインと色
- ・ 道路照明柱の色

■ 道路デザインの方向性

中原街道都市景観形成地区の景観形成方針を踏まえ以下の方向性で検討していくことが望ましいと考えられる。

中原街道景観形成方針

「人にやさしく、歴史が息づく街なみの創造」

1. 歴史・文化を伝える「風情」がある街なみづくり
2. 人にやさしい街なみづくり
中原街道を歩き交う人々が、安全に通行し、緑や開けた道路空間が感じられる街なみづくりを進めます。
3. 「住」と「商」、交流が生まれる街なみづくり

景観形成基準

- 公共空間における舗装等の色彩は中原街道の歴史的建造物等に見られる色テーマ色に合わせたものとするを推奨します。
- 歩行者空間となる場には、可能な限り緑を配置するとともに、地域の歴史及び文化を想起させる設えを行うことを推奨します。
- 舗装材は、自然素材又は質感のある素材を使用するよう努めます。（参考：民地の基準）

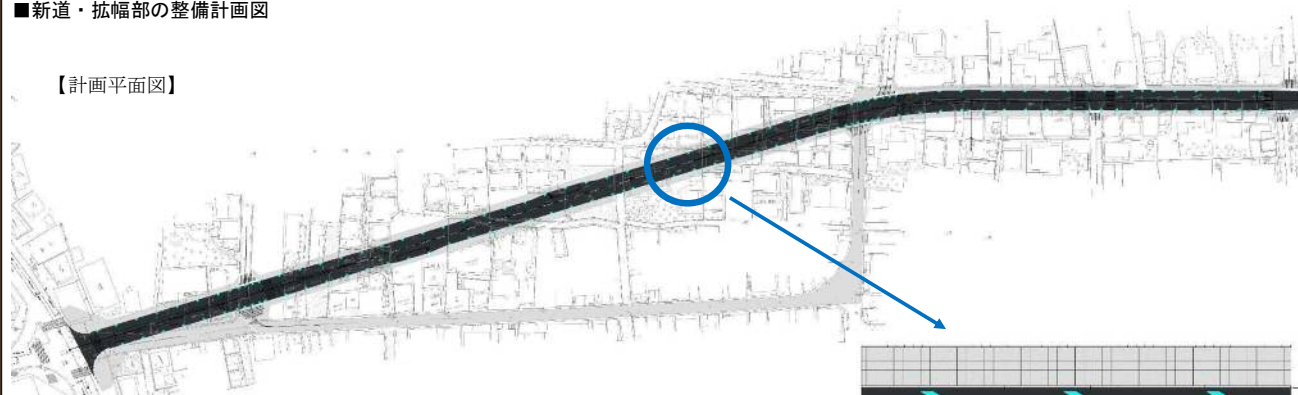


【基本コンセプト】

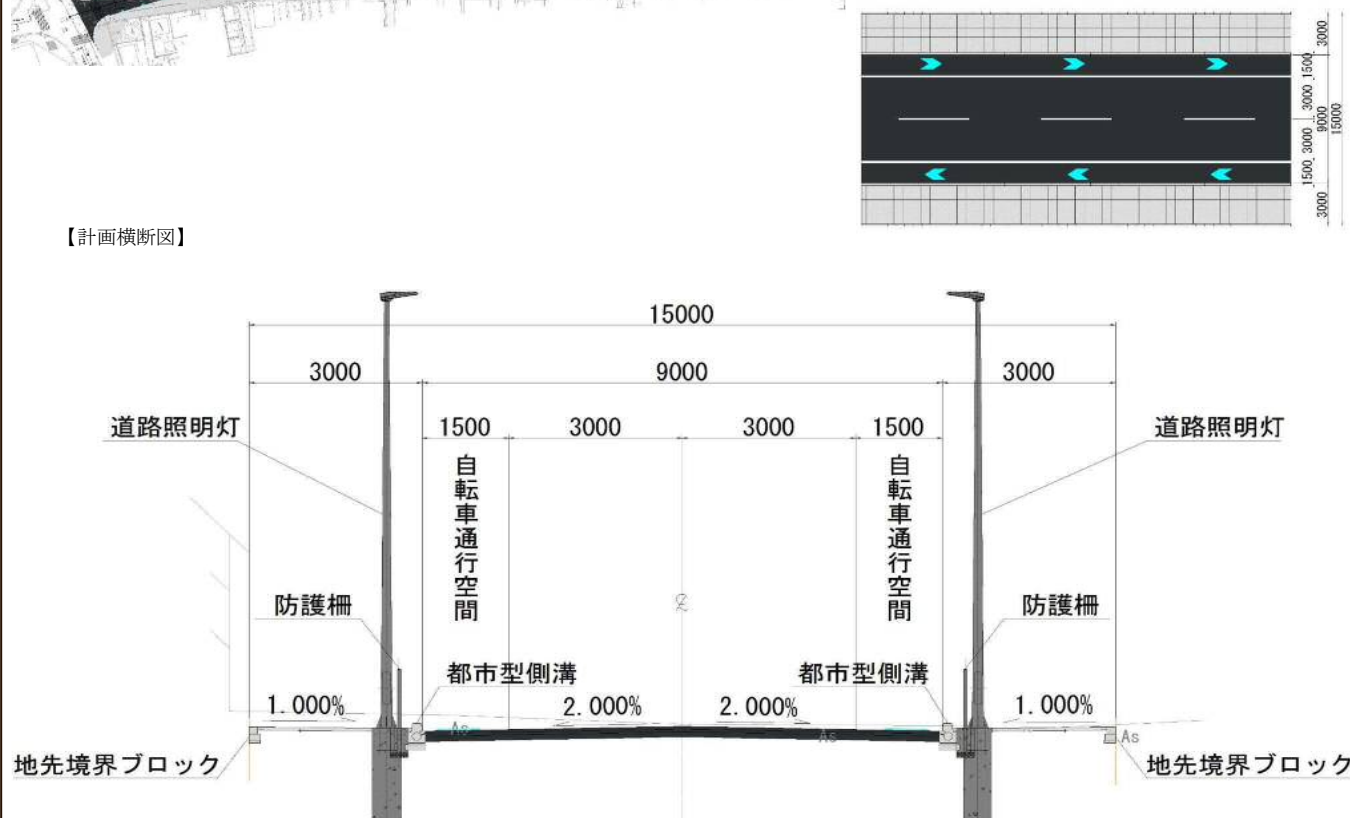
・ 交通機能を確保した中で、歩道と道路付属物（横断防止柵・道路照明柱）の色の調和と、旧道との調和を図った、中原街道の歴史・文化を感じる落ち着いたデザイン

■ 新道・拡幅部の整備計画図

【計画平面図】



【計画横断面図】



歩道整備案1 (石の灰色を主とし、瓦の鼠色で調和を持たせた整備案)

【整備デザインコンセプト】

□沿道の史跡等に石が多く用いられていることから、石の灰色を基調とする。

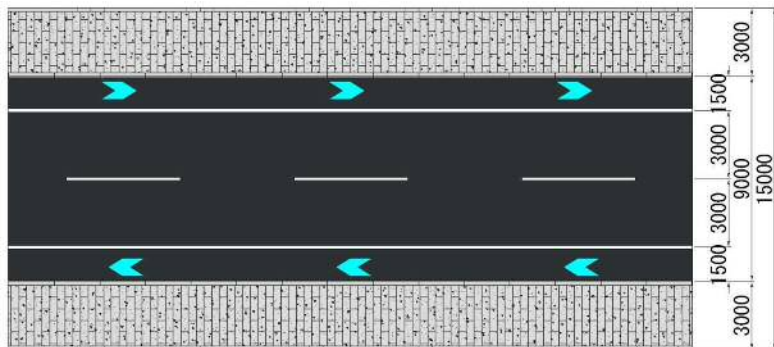
【歩道】

□西明寺参道の石畳を連想させる石畳風のデザイン。

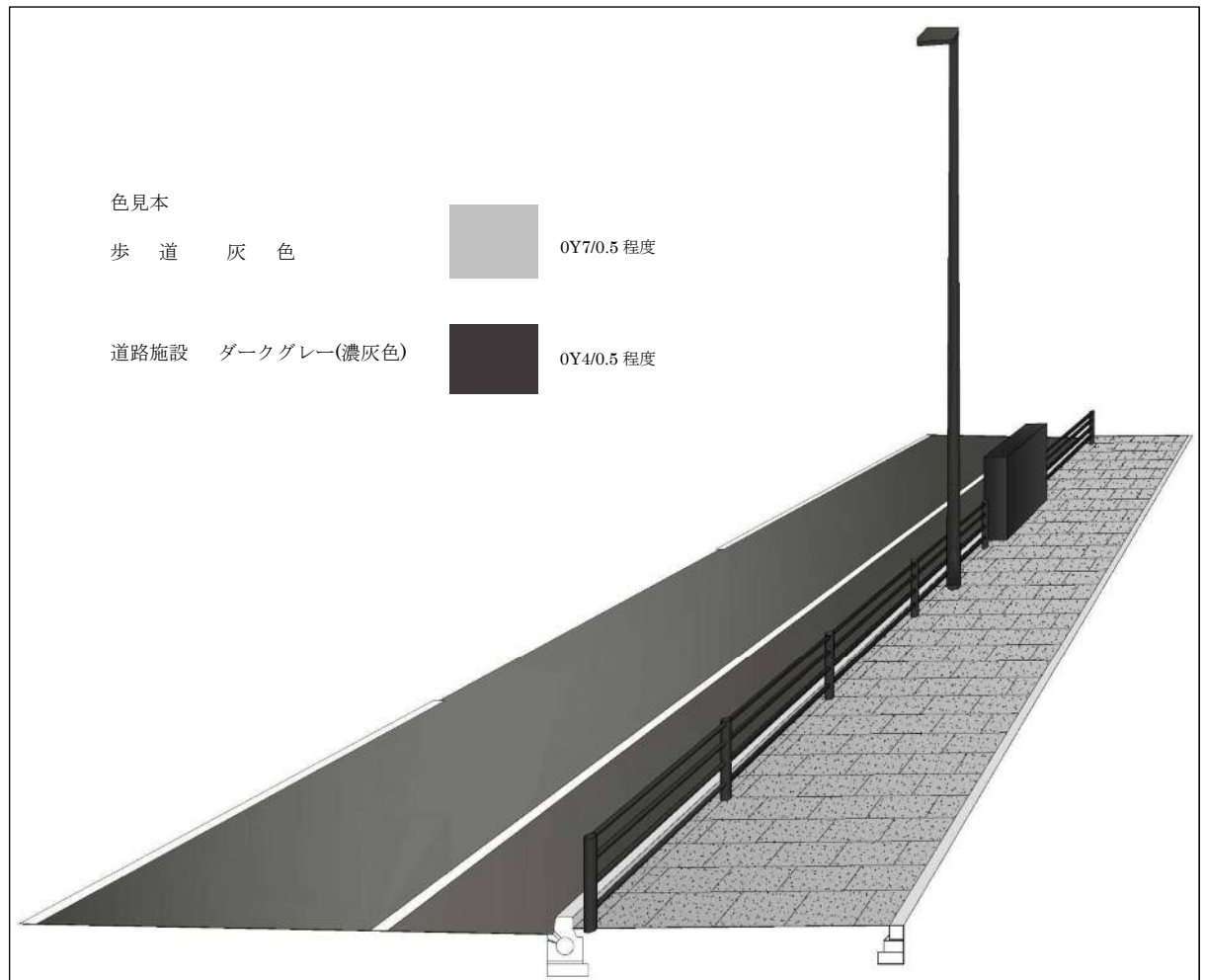
【道路付属物】

□歴史・文化的な景観を演出しつつ、周辺景観に調和する主張し過ぎないシンプルなデザイン。色は中原街道の歴史的建造物等に見られるテーマ色の中から「瓦の鼠色（ダークグレー）」を選定。歩道舗装と調和しつつ、適度な対比を持たせている。

【平面拡大図】



【整備イメージ図】



色見本

歩道 灰色



0Y7/0.5 程度

道路施設 ダークグレー(濃灰色)



0Y4/0.5 程度

歩道整備の事例（灰色系）

・東京都 秋葉原 国道4号線

<歩道>



石畳風の景観ブロックを使用し、千鳥に並べて石畳のような景観を表現している。

<景観ブロック>



表面を洗いざらし加工した景観ブロックを使用することで質感を出している。

<横断防止柵>



ベージュ系の横断防止柵を使い、色に統一性を持たせている。

・東京都 日本橋 三井本館前

<歩道>



正方形と長方形の景観ブロックを組み合わせ並べ、石畳のような景観を表現している。

<景観ブロック>



表面を洗いざらし加工した景観ブロックを使用することで質感を出している。

歩道整備の事例（灰色系）

・東京都 御茶ノ水 御茶ノ水仲通り

<歩道>



通常より細いタイプの景観ブロックを使用し、千鳥に並べて繊細さを表現している。

<景観ブロック>



表面を洗いざらし加工した景観ブロックを使用することで質感を出している。

<名称・歴史の表示>



景観に合わせた色とシンプルなデザインで周辺と溶け込んでいる。

・東京都 神田 本銀（ほんしろがね）通り

<歩道>



薄い灰色と濃い灰色景観ブロック（インターロッキングブロック）を組合せ、変化を作っている。

・東京都 紀尾井町 ガーデンテラス前

<歩道>



薄い灰色一色の景観ブロック（インターロッキングブロック）を使用し、シンプルに仕上げている。

歩道整備案2 (土壁の黄土色を主とし、木のこげ茶色で調和を持たせた整備案)

【整備イメージ図】

【整備デザインコンセプト】

□沿道の歴史的木造建造物と調和する、茶系を基調とする。

[歩道]

□古道を感じさせる色合いと石畳風のデザイン。

[道路付属物]

□歴史・文化的な景観を演出しつつ、周辺景観に調和する主張し過ぎないシンプルなデザイン。中原街道の歴史的建造物等に見られるテーマ色の中から「木のこげ茶色(ダークブラウン)」を選定。歩道舗装と調和しつつ、適度な対比を持たせている。

色見本

歩道 黄土色

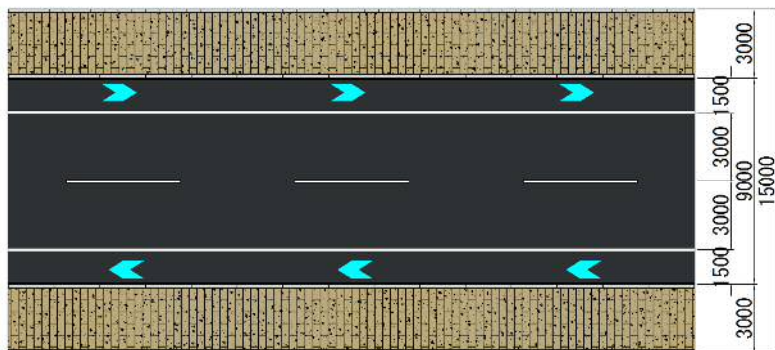
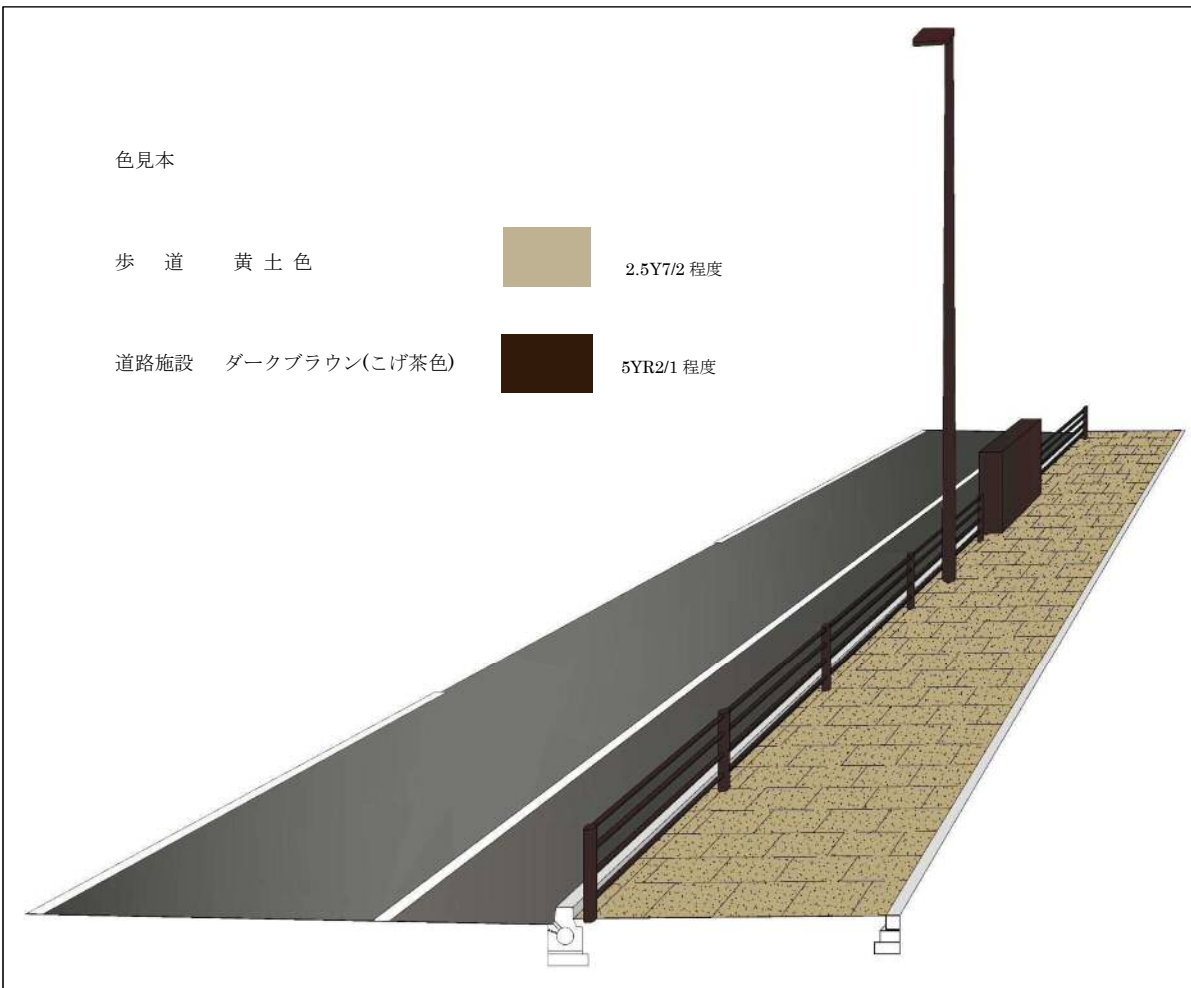


2.5Y7/2 程度

道路施設 ダークブラウン(こげ茶色)



5YR2/1 程度



歩道整備の事例（黄土色系）

・東京都 飯田橋 神楽坂

<歩道>



薄い灰色と濃い灰色に加え、黄土色の景観ブロック（インターロッキングブロック）3色を使用し、表現豊かな歩道整備をしている。

<景観ブロック>



<名称・歴史の表示>



景観に合わせた色とシンプルなデザインで周辺と溶け込んでいる。

・東京都 青山 青山通り

<歩道>



薄い灰色と濃い灰色に加え、黄土色の3色を使用し、大き目の景観ブロックで構成することで、現代的な雰囲気を感じられる。

<景観ブロック>



<横断防止柵>



歩道と同系色の横断防止柵を使い、景観に配慮している。

歩道整備の事例（黄土色系）

・東京都 飯田橋

<歩道>



黄土色の景観ブロック(インターロッキングブロック)を使用し、土色のような自然と調和した整備をしている。

<景観ブロック>



単調にならないよう白色系のブロックと組み合わせて変化をつけている。

<横断防止柵>



ダークグレー系の横断防止柵を使い、景観に配慮している。

・東京都 飯田橋

<歩道>



正方形の景観ブロックを使用し、規則正しい景観に仕上げている。

・東京都 四谷

<歩道>



黄土色の景観ブロック(インターロッキングブロック)を使用し、整備している。

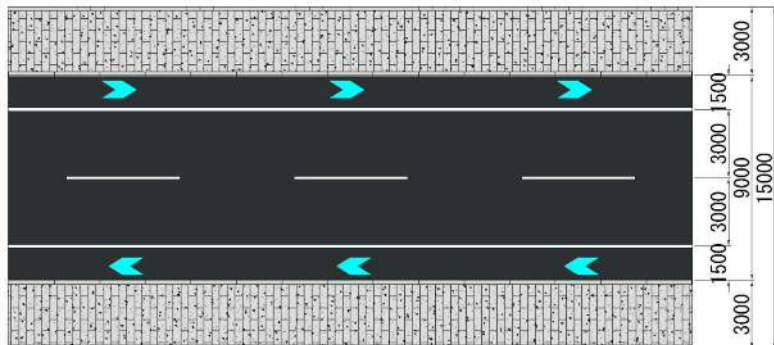
道路付属物の設え

【整備デザインコンセプト】

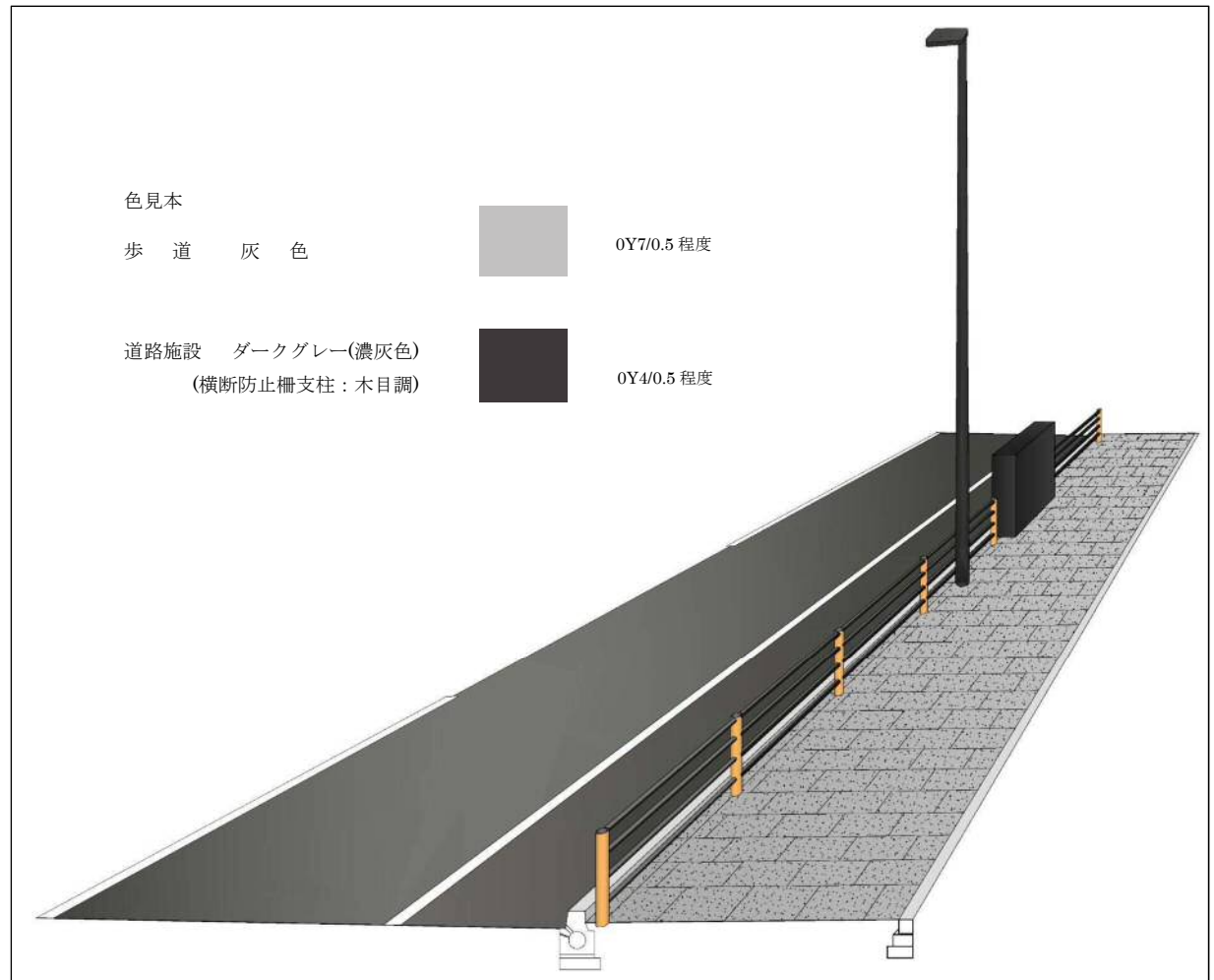
〔道路付属物〕

□歴史・文化的な景観を演出しつつ、周辺景観に調和する主張し過ぎないシンプルなデザイン。横断防止柵は、支柱を木（人工ウッド）にして色と質感にアクセントを持たせている。その他の道路付属物は、中原街道の歴史的建造物等に見られるテーマ色の中から「瓦の鼠色（ダークグレー）」を選定。歩道舗装と調和しつつ、適度な対比を持たせている。

【平面拡大図】



【整備イメージ図】



道路付属物の色彩例

・横断防止柵

<ダークグレー>



<ベージュ>



<ダークブラウン>



・道路照明灯

<ダークグレー>



<ダークブラウン>



<グレー>



道路付属物のデザイン例

<木材の質感を活かした横断防止柵>



<材木を感じる横断防止柵>



<街道の歴史を設えた横断防止柵>



<古風を感じる横断防止柵>



中原街道の史跡

